

地区名 大館市・北秋田市・北秋田郡

所在地 北秋田市前山字萩ノ岱

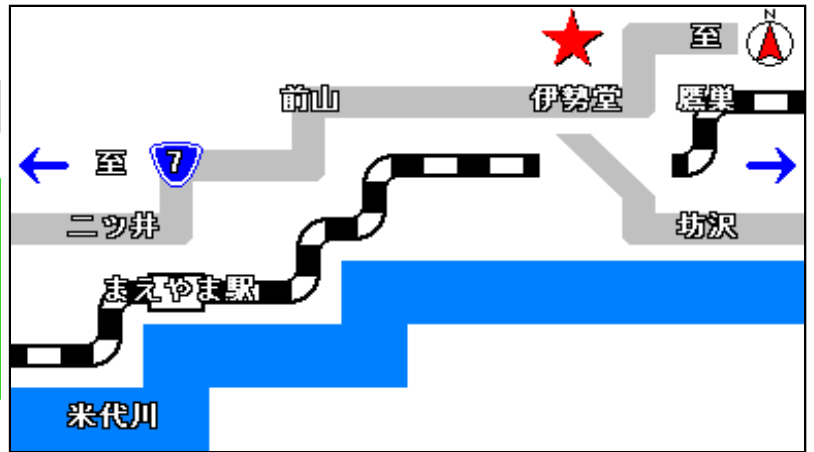
バス駐車 ○ 大地のつくり

トイレ × **水のはたらき**

露頭までの道のり

能代市から国道7号線を大館方面に進み、奥羽本線まえやま駅付近を過ぎると、左側に見えてくるところが観察場所となる。

安全上の留意点



工事現場となっているため工事車両などには十分注意が必要。白っぽく見える地層に近づくには、足下の悪いところを通る必要があるので注意。観察場所が広く、死角になりやすい箇所もあるので、活動範囲を制限するなど児童を掌握する工夫が必要。

観察のポイント

- ① 大きな地層の広がりを感じる。
- ② 地層が奥まで続いていること。
- ③ 川原で見えるような円礫があること。
- ④ 角ばった火山岩が見あたらないこと。

地質年代

第四紀更新世前期(約160万年前)

露頭概観

指導形式

A,B,C

解説

地層の下部を構成する、白く見える砂岩やシルト岩の層は笹岡層と見られ、上部の茶色に見える砂や円礫が入る層が瀧西層である。地層を構成するものが砂やシルト、円礫であることから「水のはたらき」でできた大地であることを判断できる。笹岡層と瀧西層が傾斜不整合の関係に見えるが、この調査だけでははっきりしなかった。

(筆者独自調査)



露頭の左側に道路があり、その脇の露頭には容易に近づける。児童の持っている移植ベラで地層を掘ることができ、奥まで続くことが確かめられる。



左の写真の露頭では、このような円礫が多数見られる。どれも角の取れた形をしており、「水のはたらき」でできたことの証明となる。



露頭の白っぽい地層では、砂やシルトしか見られないのは何故か想像させてみてもおもしろい。堆積当時の環境に思いをはせられるだろう。